



日本女子体育大学
Dance Letter ^{Vol.33}

発行
〒157-8565 東京都世田谷区北烏山8-19-1
日本女子体育大学 運動科学科 舞踊学専攻
発行日:2018年6月11日

<http://www.jwcpe.ac.jp/>

<http://www.jwcpe.ac.jp/>

3年生パフォーマンス

内山菜々海(4年)坂本研究室

『ドク、ドク、』『とうとう人目に披露する。』という緊張と喜びが入り混じり速まる私たちの鼓動をさらに加速させるかのような心臓音から作品は始まりました。「2015B坂本研究室にしかできない、『つぼくない』作品にしたい」という話し合いのもと、創作活動が行われました。鑑賞にいらした先輩方のご意見が気になっていたのですが、「今年のメンバーだからできた作品だったと思う!」という言葉で頂戴でき、挑戦の先頭を担ってくれた振付者のあんちゃん、たむ、かのちゃんに改めて感謝を伝えたいと思いました。

そして既に卒業公演という次の目標且つゴールへ向かっています。只今坂本研究室では、バレリーナ達によるパーレッション、キン肉マン達による筋トレが授業時に行われています!個々の技術と作品の完成度をあげ、卒業公演を迎えてみせます。

「相生」…一緒に生育すること、2本の幹が途中で一緒になっていること。23人という大所(女)帯、23幹が1つの大きな木となって、印象に残る作品を創れるよう、全員で頑張ります。2015B卒業公演、みんな!魅せてやろうぜ!☆

最後になりましたが、3年生パフォーマンスを支えてくださった先生方、助手さんはじめ、連日スタッフで携わってくださった後輩の皆さん、本当にありがとうございました。



今枝星菜(4年)高野研究室

「園」と書いてエデンと読む、これが私たちの作品のタイトルでした。コンセプトは「欲求と抑制」であり、それをフォローする形でアダムとイブのストーリーを持ってきました。

20分という時間の中で、どうやってドラマチックな演出を成立させるか、これは大きな課題となりました。幸いにも、高野研究室は9人という比較的少人数の研究室であったため、一人一人と密な時間を過ごすことができましたが、やはり時間の共有が少し足りなかったと感じます。作品をつくるとき、私がする話は感覚のことが多いです。自分と全く同じ経験をして生きている人なんてこの世に一人もいないのだから、それなりに時間を共有し、共通体験をすることが大切だと思っています。3年生パフォーマンスでは、この時間が少なかったです。

しかし、卒業公演までは時間があります。作品をつくるという感覚よりは、自然と生まれてくる感覚、または時間共有の結果論で良いと思っています。それが決して世俗的なものでなくても、高野先生と研究室の9人で、責任をもって信じてあげたいです。



高橋楓華(4年)松山研究室

こんにちは。松山研究室の高橋楓華です。松山研究室は11月26日に行われた3年生パフォーマンスで、「ゆめみること忘れなくて」を上演しました。始まりのきっかけは漠然と"非現実"がやりたいということでした。そこからE401で非現実を体験したり、真剣に妄想して妄想を分析してダンス化を試みたり、意識と身体についての感覚の共有を試みたり、本気で枕投げをしたり、アリーナを永遠に走ってみたり、みんなで布団ですやすやす寝てみたり、沢山のやりたいことをとにかくやってみました。そして、最終的に目指すべきは、←ここであると分かり、に辿り着こうと必死でした。←が何なのか、何処なのか、誰なのか答えは出ていなく、分かりません。しかし本番で見ることができた景色を振り返るとき、ここからがスタートで、卒公に向かっていく基みたいなものができたのではないかなと感じることができました。

3年生パフォーマンスの無事終演にあたり、支えて下さった全ての方に感謝申し上げます。ありがとうございました。そして、松山研究室を今後も宜しくお願い致します。



金子明日香(4年)石川研究室

私たち石川研究室は、3年生パフォーマンスに向けて、4月から話し合いを始めました。進行、やり方も全て自分達で決めるため、前年の例などを参考にしながら進めました。話し合いの結果、最初に振付者候補が1人ずつ、提案された曲で振りを作り、お試し練習をしました。そこから作品振り付け者決めが行われ、立候補者4人全員が振り付け者となりました。パートごとに分けて振付をしていき、構成は様々な案を試しながら作っていききました。定期的に、先生からの意見もいただき、試行錯誤しながら作っていききました。また、今回大道具で椅子と可動式の机を使い、作品を作っていました。しかし、作品が8割くらい仕上がった時点で机を使っている意味を見出だせなくなり、椅子のみの使用に変更しました。後半は毎週先生に見ていただき、作品がもっと濃く良いものになるようにアドバイスをいただきました。

振付や構成を実践すると予想通りにいかないことも多く、難しかったのと同時にとても学ぶことが多かったです。今回の経験を卒業公演に生かし、よりよい作品を19人で作り上げたいと思います。



浜原安菜(院1年)大学院

多くの学生が卒業と入学を迎えるこの時期に、私も日本女子体育大学を卒業しました。そして先日、本大学の大学院へと進学しました。舞踊学専攻の卒業生はダンサーを目指す人たちが当然多かったように思いますが、周囲では企業へ就職する人や教員になった人も多くいました。私も昨年の3月ごろは就職活動をしており、卒業後も就職するつもりでした。しかし就職活動と卒業研究を並行して行っているうちに、自分の本当に興味があることや将来をかけたと思えることは、研究を続けることであると考えようになりました。

私の研究は「宗教と芸術」を主題としているもので、この2つは超越論的なものを背景にする共通点を持ち、人の理性ではなく直感に働きかける機能があります。そして「舞踊」においても、高い技術力を持つものにはある種の特殊な力があるとされていることや、神との接触の手段として舞踊が用いられる場面で宗教との深い関わりを見ることが出来ます。しかし宗教から芸術が独立したように、舞踊には舞踊だけの力が存在します。踊ることによって得られる高揚感や倒錯性が人にどう影響するのか、それは新たな信仰の対象と成り得るのか、舞踊と宗教的なものを今後探求していきたいと考えています。



編集後記

小松百合子・竹田奈央(3年)

最後までご覧いただき、ありがとうございます。

新年度が始まり、ますます活気があふれ、皆それぞれ楽しく有意義な学生生活を送っています。

ダンスレーターを通じてよりニチジョの魅力を伝えていきたいと思っています。これからも宜しくお願い致します。



NEWS

【第79回ダンス・ワーク・セミナー】

2018.8.17(金), 18(土)@本学 総合体育館多目的ホール 他
※このセミナーで試験対策となるソロ作品の作り方を教授します。

【第71回全日本中学校・高等学校ダンスコンクール】

2018.11.23(金・祝)@メルパルク TOKYO

【3年生パフォーマンス】

2018.11.4(日)@本学 総合体育館多目的ホール

【第17回舞踊学専攻卒業公演】

2019.1.22(火)@府中の森芸術劇場 どりーむホール



ワークショップ

近藤志歩(3年)高岸直樹ワークショップ

私は、昨年12月初めに元東京バレエ団トップダンサーで、世界でも活躍されている高岸直樹さんのバレエのWSに参加しました。長身ですらりとした高岸さんをひと目見て、その華やかなオーラに圧倒されたのを覚えています。

ただのバレエレッスンではなく、基礎を大切にしながらも自分らしさを出すことを、センターレッスンでは、テクニックはもちろん腕や顔の細かな表現力を出すことを丁寧に教えていただきました。実際のお手本や例え方が独特で面白く、楽しみながらレッスンをすることができました。そして踊る喜びや楽しさを再確認することができました。

レッスンの中で高岸さんが特に強調していた言葉は「パッション」でした。すなわち情熱を持つことです。たとえできなくても頑張ろうとする気持ち、なりきって表現しようとするのが大切なのだと学びました。最後には「ドン・キホーテ」のキトリ第一幕のヴァリエーションを教えてください、夢のような素敵な時間を過ごすことができました。終わってからの質疑応答の時間に、私たちがからの全ての質問にも丁寧に答えて下さり、その踊りそのものからにじみでる人間性を、言葉からも感じました。

このような貴重な機会を経験することができ、とても充実した時間となりました。



柳澤佳純(3年)松田尚子ワークショップ

今回は松田尚子さんのWSをどうしても受けたくてその日にあった予定を調整しました。ストレッチの時点を受講してよかったと感じました。ストレッチする時の体の動かし方を少し注意していただいただけでかなり可動域が広がり、伸びている箇所も全然違う感覚だったのを覚えています。身体全体を使って体を動かすという楽しさ・気持ち良さを感じました。普段のレッスンとはまるで違うストレッチで慣れないことが多くありましたが、それが新鮮でした。

コンビネーションは本当に楽しかったです。WSが終わった後もまだまだ踊りたいと思いました。曲はゆっくり伸びの多い曲でしたが、意外と早い振りが多くて苦戦しました。身体を使ってぐーんと伸ばすところと手の向き・肩の動きなどの細かい動きの使い分けがとても難しく、力の入れ方が絶妙で緩急をつけるのが大変でした。後半にフロア振りが多く入ってきて慣れない動きで曲についていくのがやっとでした。それでもやったことのないフロアの入り方や、フロア振りのレパートリーを知ることができて勉強になりました。

尚子さんの音楽に合わせたニュアンスの振りは踊っていてとても気持ちが良かったです。普段は早取りしがちですが、このWSの時は自然と普段よりも曲をよく聴いて、音楽に動きを乗せてこうしていました。そのため、踊っていてとても気持ち良かったです。今回のWSに参加できて本当に良かったです。



部活動

平田祐香(3年)ダンス・プロデュース研究部(自主公演)

年に一度行われるダンス・プロデュース研究部の自主公演において、制作を担当させて頂きました。興味があり立候補したものの、私はスタッフとしての経験が浅く、制作とは公演にどのような形で携わるのかさえ知らない状態からのスタートでした。

ダンサーを集め、チラシを作成し、他公演に折り込みをし、チケットを割り振り、外部からの問い合わせの対応、学生スタッフへの指示、舞台スタッフさんとのやり取りなど、やらなくてはならない仕事をひたすら追いかけることしかできず、部長である松澤先生には助けられてばかりでした。本番が近くなると、リハーサルの様子を見に行ったり、会場を下見し公演当日の動きをシュミレーションしたりなど、できる限りのことを準備しました。

公演が無事終了し、一つの公演を作り上げるまでには、自分が想像もできなかったような数々の過程があり、多くの人に関わっていることを学ぶことができました。制作という仕事は経験しなくては分からないことで溢れていました。周りの人達に沢山の迷惑をかけてしまいましたが、まさにここでしかできない経験をしました。また、自主公演の制作を通して、「将来自分はダンスにどのように関わっていきたいのか」実体験を踏まえて考えることができました。今後もこの二チジョでたくさんの方の事を吸収しようと思える機会となりました。



一杉綾音(4年)ソングリーディング部

私たちソングリーディング部GRINSは昨年11月18日に行われたALL JAPAN CHEER DANCE CHAMPIONSHIP 2017(第17回全日本チアダンス選手権大会)、3月27日に行われたUSA School & College Nationals 2018両大会において、JAZZ部門1位およびグランプリを獲得することができました。このような名誉な賞を頂けたのは、沢山の皆様のおかげだと思っています。チームに携わって下さった指導者の方々、日頃より支援して下さる学校関係者や保護者の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

4月23日からアメリカ合衆国フロリダ州で行われる2018 ICU WORLD CHEERLEADING CHAMPIONSHIPSに日本代表として出場します。常に目標に向かって活動ができる環境を当たり前と思わず、応援して下さる方々の想いを胸にさらなる飛躍を目指していきます。



小林真子(4年)舞踊部(発表会)

今回で私自身3回目となる舞踊部発表会でした。今までは出演しているだけだったので、本番に向けて練習するのみでしたが、今回は主将ということで出演はもちろん、会場や楽屋、タイムスケジュール、カメラマンさんとの連絡、プログラム順など、発表会に関する全てを取り仕切らなくてはならず、とても大変でした。発表会当日が近づくと、楽しみになっていく気持ちがあった反面、不安や緊張も大きくなっていき、主将としての責任感を重く感じる機会が多くなりました。キラキラ輝きながら踊っている出演者、裏方ながらも発表会を最も支えてくださったスタッフの方々、今回の発表会をするにあたってたくさんのご迷惑をかけながらも相談にのっていただいた山崎善弘先生、宮本乙女先生。その他にも様々な方々のご支援があつて成り立つ発表会だと感じました。舞踊部史上最多人数で行われたことによりプレッシャーだと感じたことも多くありましたが、それ以上に感動を与えてくれたとても素敵な発表会になったと思います。主将としての役割を全うできたかどうかは分かりませんが、とても良い経験をさせていただきました。本当に大好きな部活です。ありがとうございました！



で楽しみながら踊れるダンスとなっています。ダンスを通して地域と交流できる機会となっており、これからも引き継いで行きたい活動のひとつです。

外部活動

安保菜々子(3年)からびょん

皆さんは「からびょん」をご存知でしょうか。からびょんは、おまつり大好き!世田谷区烏山地域のキャラクターで、小学1年生のダンスが大好きなカラスの女の子。「からびょんのうた」に合わせて「からびょんダンス」をダンス・プロデュース研究部の先輩が作ったのが始まりで、烏山地域でお祭りなどがあるとダンス・プロデュース研究部の「からびょんメンバー」がからびょんと一緒に参加しています。そんなからびょん活動ですが、私自身もからびょんメンバーとして1年生から活動しています。ここ2年間活動してきていることは、からびょんの知名度がぐんと上がってきているということです。このことはからびょんメンバーとしてとても嬉しく、喜ばしいことです。年に20回程の活動ですが、小さな子どもからお年寄りまで多くの方から声をかけて頂きます。からびょんを見て、笑顔になってくださるのを間近で見られるとてもやりがいのある活動です。また、イベントで披露しているからびょんダンスは親しみやすく、みんな

新入生の言葉

今門萌(1年)A1クラス

入学式から二週間が経ち、授業も始まり、少しずつ大学生活にも慣れてきました。初めは不安もありましたが、全国から集まった同じ目的を持つメンバーと話し、自分の知っていること、知らないこと、同じことでも考え方や見方が違うこと、この二週間だけでも多くの発見がありました。

授業では舞踊について座学を通し理論的な面から学び、実技を通して基礎から確認していくことで、これまでやってきた舞踊と自分の関係性を改めて見つめ直すことができます。

そして、一緒に学んでいくA1クラスは明るくてダンスのジャンルも個性豊かなクラスです。7月のSHOWCASEに向けた練習でも、それぞれの持ち味をいかしたダンスを披露し、互いに刺激し合い、これからの練習にワクワクしています。先輩方のご指導のもと、本番へ向けて励んでいきます。

先生方、先輩方、友達、家族、今いるこの環境に感謝を忘れずに大学生活を過ごしていきます。



熊倉理子(1年)A2クラス

憧れだった日本女子体育大学に入学して、慣れないことが多くまだまだ不安はありますが、大好きな踊りを思いっきりできる環境と個性豊かな仲間にも恵まれ、とても充実した毎日を送っています。

私は幼い頃から主にストリートダンスをやってきました。バレエやモダンダンス、コンテンポラリーダンスは未経験だったのでみんなについて行けるのかとても心配でした。しかし、専門でやってきた人が教えてくれたり、先生がわかりやすく指導して下さるので、安心して授業に参加することができました。これからもっと深く舞踊のことについて学ぶことができるんだなぁと思うとワクワクが止まりません。

A2クラスはさまざまなジャンルのダンサーが集まった、楽しく、賑やかなクラスです。すでに夏のSHOWCASEに向けての練習が始まっていますが、どんな作品ができ上がるのか今からとても楽しみです。A2クラスの振り付けをして下さる3年生の先輩方とクラスメイト全員で一致団結し、初舞台を大成功で終わらせることができるように全力で頑張りたいと思います。

これからの4年間を無駄にせず、たくさんの方の事を吸収し、自分の夢の実現に向けて努力し続けていきます。



小泉結佳(1年) A3クラス

きっと、某大学の舞踊学専攻の先生も想像できなかったくらいに、私がこの大学に入ったことは私の知り合いにとっても驚きだったと思います。もともと本格的にダンスを習ってこなかった私には、創造性の試されるAOでしか受かる希望はないと思っていました。そこで拾われてよかったなあ、と日々まわりの人たちの身体の可動域の広さを見てしみじみと感じています。

私がいるA3クラスは、おもしろい人たちが沢山います。みんなきっと、自分でも気付いていないかもしれないけれど、舞踊について心の奥底で信じてきたものがあって、それが人となりであらわれて、表情にもあらわれて、表現にもあらわれているのだと思いました。そうやってみんなの踊りを見ることが楽しみです(私も踊らなくてはいけませんね)。このクラスで作品に出るということは、なんだか高校生みたいで、もどかしもあるけれど、初めて出会った人と舞台の上に立つわくわくは最高です。みんなと、舞台上の瞬間の中で、一緒に生きて、いい踊りができたらなあ、と思ってまずは柔軟をしっかりやりたいと思います。誰よりも身体がかたくて、誰よりも踊れないかもしれませんが、目標は高く、ニチジョでの生活を過ごしていきたいです。



関根和子(1年) B1クラス

日本女子体育大学に入学し、早2週間がたちました。これからの学生生活、同じ学年、クラスの仲間たちと切磋琢磨しあい成長していけることへの喜びと嬉しさがこみ上げてきます。

私は、舞踊家である母の影響で幼いころより現代舞踊を続けています。その中で、舞踊の技術やボキャブラリーを増やし、独自の舞踊を創作できる舞踊家になりたいと考え、日本女子体育大学への入学を決めました。舞踊学専攻を選んだからには、自己のダンスを上達させ、自己のダンスを上達させるには、実技だけでなく、理論を理解することが踊る自分の体を理解するために必要であると考えます。本学では、実技と理論の両面から舞踊を学び、得た知識を自分の体で応用できる機会が豊富にあると思います。そんな環境を有意義に使い、「踊れる。語る。指導できる。」を目標に、様々な取り組みを眼高手低の精神で高みを目指したいです。

夏に行われるSHOWCASEは本学での様々な取り組みの初めの大きなステップです。同じクラスのメンバーとともに一致団結し、振付して下さる3年生の先輩方と素晴らしい舞台を創り上げていきたいです。

大学生としての4年間を、有意義なものにすべく精一杯学んでいきたいです。

これからどうぞよろしくお願ひ致します。



角田詩音(1年) B2クラス

入学してから2週間がたち、私達1年生も友人達とも打ち解けてきました。そして授業開始し、始めは地図を片手に何処だ何処だと言いながら教室へ移動していましたが、今では、地図を見ずに行動できるようになりました。友人達と笑ったり、初めての講義を受けたり、授業の中で体を動かしたりと新鮮な日々を送っています。

私が本学を志望した動機は、自分が将来踊っていくにあたって、ただ踊るだけでなく舞踊を学問として捉えることは勿論、踊っていく中で、負担や身体的なストレスを感じない動きができるように、また他人にそれを指導できるようにしたいからです。また、舞台を創っていく上で、構成や舞台装置をどのように使うと、観客にどう伝わるのか、それらを研究し作品を創りたいとも思ったからです。

夏にあるSHOWCASEは、1年生の私達にとって入学してから初めての舞台となります。そこでもただ踊るだけでなく、1つ1つの動きを分析して丁寧に踊ることが私の目標です。先輩方が創って下さる素敵な作品を、個性豊かで元氣なB2の仲間たちと共に一生懸命に踊ってみせます!!



吉岡葉奈(1年) B3クラス

新しい環境に大きな希望を抱き、この学校に入学して約二週間が経ちました。授業が始まり、初めての実技、たくさんの新しい友達、部活の仮入部なども増えてきてとても濃い日々を送っています。そんな中、教養演習という授業で行われたアイスブレイク。名前の通り氷を壊していくように、お互いを知るためいくつかの質問に対してみんなで話していました。話しているうちになぜこの大学に入ったのか、何をしたいのかなどを知ることができ、改めてこの学校には本気で何かをやりたい子が多く集まる場所なんだと感じました。

私はクラシックバレエやモダンダンスは未経験です。でも、自分の中のダンスの世界を広げたくて、新しいダンスに触れたくて三重から入学しました。入学させてくれた両親、入試期間やそれまで支えてくれた高校の先生方や友達には感謝の気持ちでいっぱいです。入学したからには、担任の先生もおっしゃっていたように、今までのプライドは全部捨てて、0からのスタートとしてこの学校でたくさんのお話をスポンジのように吸収していきたいです。

B3クラスは役員などが積極的にすぐ決まるしっかりした一面の中に個性もたくさんありとても楽しいクラスです。そんな私たちの初ステージであるSHOWCASEではB3colorを全開に出して最高の作品にするためこれから毎回の練習を楽しく全力で頑張っていきたいです!



鳥海夏椰子(4年) 岩淵研究室

私たちの作品のテーマは「脊椎」でした。

もともとは猫の動きのしなやかさに興味を持ち、その秘密が脊椎の機能にあるところから、脊椎動物をヒントに創作することになりました。ある時は皆で連想する言葉のブレインストーミングをしたり、動物の骨格標本を見てみたり、テーマを表現するためあらゆる可能性を考え、試行錯誤を繰り返しました。

11月の本番に向けて、夏季休暇からおおよそ4ヵ月強、長いようで意外と時間は足りません。次は何を試そうか作戦を立てて、皆で集まる時間をいつも楽しみにしていました。たくさん玉砕しながらも、作品とともに自分たちの研究室活動の在り方も徐々に形になっていきました。

3年生パフォーマンスは卒業公演の前にはなくてはならない大事なイベントです。ここで積み上げたものと、また新たにインプットした部分とを織り交ぜて卒業公演へ向けてまた新たに、楽しく活動していきたいです。

的確なアドバイスをくださった先生、3年生パフォーマンスを支えてくださった方々、観客の皆さん、大好きな研究室のメンバーに心から感謝致します。



安田夏菜(4年) 渡辺研究室

私たちの研究室はほかの研究室に比べたら少ない7人という人数で「color primario」という約8分の作品を創った。タイトルは、「混合することであらゆる種類の色を生み出し、私たち一人一人の個性を活かして混ぜ合わせていくことで新たなものを作り出す」という意味が込められている。この作品を創り上げるまでの道のりは長く、決して容易ではなかった。何度も揉めて、意見を出し合い、試行錯誤してやっとの思いで創り上げた7人の作品である。

各自が役割をもち、分担して行動していたが、一人が担う負担は大きく、研究室の空気が悪くなることもあった。しかし、少ない人数だからこそ、お互いを理解し、協力しあい、作品のテーマであった一人一人の個性を出すことができたと思う。また、周りの方々の協力は大きく、特に渡辺先生には練習開始から本番まで親身に私たちを支えていただいた。それも、作品が一つにまとまった理由の一つである。



今回の3パフォでは個々の色を出し、ロマのように自由な現在の私たちのありのままの姿をみせた。次はそこから成長し、それぞれの道へと進んでいく新たな姿を見せたいと思う。

正課活動

青木ももか(4年) 舞踊学専攻 卒論発表会

本年度の卒業論文発表会は、私にとって忘れられないものとなりました。理由は2つあります。

1つは裏方として携わったことです。私は計時を担当し、定期通りに発表が進むよう正確な時間を座長に伝えました。5分間という限られた時間の中で発表された研究内容はとても濃く素晴らしい内容で、時間もしっかり守ってくださり、完成度の高さに驚きました。

もう1つは、1年間同じ研究室で学んできた先輩方の成長を感じたことです。私が研究室に入って初めて先輩方で行った勉強は、8時間連続での論文討論でした。先輩方の論文は難しく、担当教授の松澤先生にはたくさん怒られていて、私はついていくのがやっと、と散々でした。でもそのあとの親睦会では、昼間の殺伐とした空気が嘘のように皆仲良く笑いあっていて、日付が変わるまで一緒に過ごし、私の相談にも先輩方が親身になって乗ってくださいました。そんな日々を共に過ごしてきた先輩方の素晴らしい舞台は輝いていて、堂々と立っている姿を見ると、誇りや憧れと同時に、胸にこみ上げるものがありました。

いよいよ私が最終学年となりました。集大成として、最後まで見捨てない熱く素晴らしい先生の下で自分の研究をやり遂げたいと思います。



3年生パフォーマンス

阿多涼花(3年) 舞台監督

私は大学に入るまでスタッフの経験はなく、初めて裏方スタッフを経験したのは2学年上の先輩の3年生パフォーマンスでした。普段はダンサーとして舞台上に立たせてもらっている立場ですが、裏方であるスタッフを経験したことにより、自分の想像していた以上に舞台を支える裏方の仕事は大変なものだと知りました。昨年の夏休み中、日頃からお世話になっている1学年上の先輩が行う、3年生パフォーマンスでの舞台監督の募集がありました。3年生パフォーマンスという私にとって思い入れのあるイベントで、尊敬する先輩方の大事な舞台を一顧客としてではなく、舞台監督として裏から支えたい、そして本番を共に成功させたいという気持ちがありました。正直にいうと、3年生の節目となる大事な公演を裏で動かす大役、舞台監督を私が担って大丈夫なのかと不安とプレッシャーがとても大きかったです。しかし、同期や先輩に背中を押され、できるのであれば他の誰にも譲りたくない、やるからには「あなたが舞監で良かった」といって頂けるくらい最後まで全力でやり遂げようと思いました。決して楽な仕事とはいえませんが、先生方そして、最高のダンサー、ダンサーに全てを捧げて裏でしっかりと支える最高のスタッフが居たからこそ無事、成功裡に終えることができたのだと思います。私自身も沢山の方に支えて頂き、とても貴重な経験になりました。沢山ご指導して下さいました先生方、先輩方、スタッフを務めてくれた同期、後輩達に感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

